

スト構え前進 次の闘いへ

全医労が全国で宣伝 春闘に弾み

にむけて、全国各地の国立病院前や駅前で、より良い医療実現のための増員と賃上げを求める宣伝を行いました。

↓関連③④面
機構は、昨年の春闘の賃上げを今年4月まで先延ばしし、ベテラン層でわずか月500円引き上げという回答に固執していました。

全医労は、2月29日の交渉で、最大8000円に上積みする2次回答を引き出し、ストを回避。本番を迎えている2024年の春闘で、月額4万円の賃上げを求め、3月14日の全国統一行動に取り組みます。

国立病院機構本部がある東京医療センター前（東京都目黒区）の宣伝で、全医労の松本よし子副委員長は、ストを背景にした闘いで大幅賃上げを勝ち取ったと報告。「ストは回避したが、医療現場の実態に見合う賃金水準にはまだ遠い。運動の経過として、次の闘いにつなげる」と強調しました。

日本医労連の佐々木悦子委員長は、医療従事者の基本給は低く、過酷な夜勤の手当でかさ上げしている実態を告発。労働条件改善を勝ち取ろうと訴えました。

国公労連の九後健治委員長は「全医労のストを構えた闘いが、労働組合の仲間にも勇気と元気を与えている」とのべ、春闘の弾みになっていると激励。23春闘で勝ち取れなかった分の賃上げを24春闘で取り戻そうと呼びかけました。



職場の待遇改善と賃金アップなどを求めシュプレヒコールをあげる全医労の組合員と支援者ら＝1日、東京・目黒区の国立病院機構東京医療センター前